

リケルニ、此コトニスコシ興サメニケリ、

〔百練抄一四條〕寛弘元年三月廿八日、花山院、覽山邊、花、左大臣藤原長、已下扈從、有和歌、

〔百練抄五河〕延久五年二月廿日、太上皇三條後陽明門院、母後三條一品内親王、子聰、參石清水住吉天

王寺給、廿二日、覽難波浦、廿五日、覽長柄橋、於御船有和歌、廿七日、還御、

〔榮花物語三十八枝〕二月廿日延久五年、天王寺に詣させ給ふ、此院をば、一院とぞ人々申ける、後三條

院とも申ゆり、略、廿二日、ひうちくだりて、かすみたなびきわたりたるほせに、御くるまどもか

たぐの御ふねによせて、いろくさまぐにさうぞきたるものどもたちやすらふまづすみ

よしにまゐらせ給、略、廿四日は、御だうのことよく御らんじ、かめ井なせ御らんず、廿五日のた

つるときばかりにぞ、御ふねいだす、むまのときに、左衛門權佐まさふさまゐれり、いろくさま

ぐにさうぞきたる中に、わかきうへのきぬにことぐ、まゐりたる、いとめづらまゐりたる、いとめづらまゐりたる、

左中辨さねまさだいたてまつる、みてぐらじまといふ所御らんず、さねまさを御船にめしあげ

て、歌共講せさせ給、略、廿六日、あめいたくふれせ、さてのみやとて御ふねいでぬ、かんだちめの

ふねにてんじやう人のりまじりて、ひねもすにあそびつゝのぼる、あまのがはといふところ

におはしましつきぬ、廿七日、けふ京へのぼらせ給とて、人々おもひぐにまやうぞくかへたり、や

はたのほせにおはしましつきぬ、まつのみどりもつねよりもことにみえ、かすみのまよりこぼ

れたるはなのほひも、はるごまのさはにあさるも、をかしくみゆるほせに、淀におはしましつ

きぬ、このほせに左のおと藤原師實、御むかへにまゐり給へり、いとおもくまゐり給へり、いとおもくまゐり給へり、

たき御ありさまなり、人のまねぶをかきつゝられる、ひがことそらごとならんかし、

〔扶桑略記三河〕寛治元年五月十九日庚午、太上天皇白攝政、從一位藤原朝臣實、内大臣藤原朝臣通、并納言參議侍臣等供奉、渡御宇治平等院、觀覽風流水石之地、廿一日壬申、上皇自宇治院